

目黒区地域福祉審議会会議録

名 称	令和2年度第3回目黒区地域福祉審議会
日 時	令和2年7月7日（火）午後6時30分～7時30分
会 場	総合庁舎本館2階大会議室
出席委員	石渡会長、北本副会長、平岡委員、中島委員、鴨志田委員、松嶋委員、北村委員、山田委員、徳永委員、中崎委員、岩井委員、吉田委員、寺田委員、松崎委員、高橋委員、内川委員、岩崎委員、小川委員、荻田委員、金子委員、須藤委員、鳥海委員
欠席委員	伊勢委員、岡本委員
区側職員	上田健康福祉部長、石原健康推進部長、長崎子育て支援部長、田邊健康福祉計画課長、小野塚健康推進課長、藤田福祉総合課長、伊藤介護保険課長、山口高齢福祉課長、保坂障害施策推進課長（障害者支援課長）、山内生活福祉課長、篠崎子育て支援課長
傍聴者	2人
配布資料	資料1 答申に向けた課題整理（新型コロナウイルス感染症関連） 資料2 目黒区保健医療福祉計画の令和元年度実績及び評価 資料3 目黒区介護保険の令和元年度利用状況（計画と実績） 資料4 目黒区障害者計画の令和元年度実績、計画目標に対する評価報告 資料5 第5回計画改定専門委員会に関する意見（追加提出分） 資料6 「計画改定専門委員会における検討のまとめ」に関する意見 資料7 「第8期介護保険事業計画策定の基礎資料のための調査・高齢者の生活に関する調査の実施結果」及び「目黒区障害者計画策定に関するアンケート調査の実施結果」に関する意見
会議次第 及び 主な発言	<p><b>1 開会</b> 委員の半数以上が出席しており定足数を満たした。新たに委員となった鴨志田委員、松嶋委員を紹介した。</p> <p><b>会長</b> 本日の会議時間は1時間とし、議題は、答申に向けた課題整理のみに絞る。3計画の実績・評価については、資料配付をもって報告を受けたこととする。質問等があれば、意見等記入用紙にて提出してほしい。</p> <p><b>2 答申に向けた課題整理（新型コロナウイルス感染症関連）</b> <b>会長</b> 地域福祉審議会では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月、5月に予定していた第1回、第2回の会議を中止するとともに答申までのスケジュールを変更した。</p> <p>5月に計画改定専門委員会は検討のまとめを行ったが、この間、感染拡大により福祉分野でも新しい課題が生じている。本日は、答申に向けて分野横断的に議論し、あらためて現状や課題等を整理していきたい。</p> <p><b>健康福祉計画課長</b> （資料1により説明） <b>会長</b> 感染拡大により予想しなかった状況が広がっている。特に医療関係の委員は様々なご苦勞があったと思う。意見・質問等をお聞きしたい。</p>

**委員** これまでの活動では、家庭を訪問し、直接会話をして人間関係をつくっていた。会えない状況の中、お互いの関係をどのようにつくっていったらよいか大変悩んだ。電話を掛けたり、手紙を書いてポストに入れたりもした。昨今では感染症に関連した詐欺に遭わないように、電話には出るなど言われている場合もある。詐欺対応の電話機ではメッセージを録音できなかつたり、留守番電話機能が付いていても操作方法が分からずメッセージを再生してもらえないこともあった。試行錯誤している状況だが、いつも見守っているというメッセージは伝えられるように活動していきたい。

**会長** 福祉の仕事は、その人の様子を踏まえて様々な関わりをしていくのが基本だが、今それができなくなっている。大変難しい状況だ。委員は工夫をしながら見守りをされている。今後ともお願いしたい。

**委員** 医療の現場で仕事をしている。地域では民生委員等ともつながりがなく、介護保険だけで頑張っていた人たちが、しばらく外出できず、一歩外に出た途端、転倒して骨折したり、認知症が進んだりして救急搬送となるが多かった。受診後、さらに何らかの支援が必要であることが分かり、行政につなぐための電話を毎日のようにしている。

新型コロナウイルスの対策において、目黒区が他区と違うと感じたのは、公園の遊具等にテープを貼り、ここでは遊べないということ子どもたちに目で訴えかけていたことだ。このようなアプローチは分かりやすく、効果的だったと思う。

また、町会の掲示板等から掲示物がなくなっていたのも印象的だった。今は、いろいろな活動が再開となり、活動の募集等が少しずつ出ているが、自宅にいる人たちには、その情報は届いていないと思う。私の家のポストに、区議会議員と思われる方の瓦版が入っており、何かが始まるというお知らせが書いてあった。その情報をきっかけに近所の人と楽しく会話をすることができた。区報を掲示板に張り出すなど、情報が広く伝わり、それが会話につながるような取り組みがあるとよい。

**委員** 小規模な店を経営している70代の方で、売上げが落ちているのではないかと心配な方がいた。結果的には、社会福祉協議会の緊急小口資金、区の住居確保給付金、国の持続化給付金の手続きをし、支援を受けた。始めに緊急小口資金の貸付を受けたとき、手元には数千円しか残っていなかった。住居確保給付金により家賃を払うことができた。

この年代の方は、支援を受けることへの抵抗感が強い。経済的に困難な状況にあっても、やればもっと稼げるのだという感覚を持ち続けている。また、役所に対して自分の財政状況を明らかにしたくないという気持ちも根底にある。

節約のため新聞は取らず、テレビのニュースは見ず、スマートフォンはあるが電話機能しか使わない、役所には行かないのでパンフレット等を手にする機会もなく、支援制度があっても知らないという状況がある。窓口で説明を受けても、現役で活躍している自信があると、内容をなかなか理解できない。支援を受けるよう説得するのに、かなりの時間を要してしまう。

支援を受けることへの抵抗感をなくし、自ら役所に出向いてもらえるよう、できるだけ詳しい広報活動を行い、制度への理解を広げていく必要がある。

**会長** 新しい支援の方法や情報提供の仕方が求められている。

**委員** 目黒区は、良いことをたくさん実行しているが、広報が弱い。もっと積極的に広報していく必要がある。また、目黒区は何をやるにも遅いというのが一般的な評価だ。いいことは、早く実行する体制をつくってほしい。

今は、「新しい生活様式」ということが叫ばれている。専門的なことは専門の部署で推進しながら、縦割りの組織ではなく、横串をもっと強く差して、区全体として対応できる体制づくりを進めてほしい。

障害者団体懇話会は、日頃から医療機関にお世話になっていることから、先日、区内の3病院に9千枚のマスクを寄付した。障害のある子どもの保護者等が感染症に感染したとき、どのように対応したらよいのかという大きな課題が生じている。行政とともに検討し、進めていかなければならないと考えている。

また、災害時、避難所となる体育館は密になりやすく、障害のある子どもにとって対応が難しい場合もある。学校の教室を開放してもらえよう、体制づくりをお願いしたい。

**委員** 区内の感染者数は新聞等で知ることができるが、区内のどこで発生したのかは分からない。個人のことなど細かい情報は明らかにできないだろうが、この辺りという概略を教えてもらえると、より効果的に外出自粛ができたのではないかと思う。

私は、自宅でミニデイサービス・ふれあいサロンを開いて2年目となる。参加者からは名前を覚えてもらうだけで、電話番号等の連絡先は聞いていなかったため、顔を見なくなっても連絡の取りようがない。今後は、参加者に連絡先を聞いておくほうがよいか考えているところだ。

**委員** 今後、区は、感染対策を講じた上で事業を推進していくことになると思う。分野ごとに共通認識を持った上で事業を実施できるように、国や都のように事業執行のガイドラインをつくっていただければありがたい。また、事業の再開により得られた情報は関連部署にすぐ伝え、次にうまくつながれるよう組織体制の充実に一層取り組んでほしい。

「計画改定専門委員会における検討のまとめ」は、新型コロナウイルス感染症の拡大を想定していなかったときのものだと思う。今後は、感染症対策を行わなければ事業が実施できない状況であるため、答申をまとめるに当たっては、本日の課題整理の内容を加えて、記載を充実させるほうがよい。

**副会長** 新型コロナウイルス感染症に関連した課題整理ということで、丁寧に資料をまとめてもらった。キーワードの一つは、ウェブやオンライン等、対面でないものを充実させるということ。一方で、引きこもり等、対象者へのアウトリーチが必要になるということも出てきた。

アウトリーチとしては、福祉のコンシェルジュや地域包括支援センター、コミュニティソーシャルワーカー等が挙がっている。これらに期待することは、方向性としては正しいと思うが、人員の確保等、体制整備の充実に現実的に考えていかなければ、支援の充実と言っても、実行は難しいのではないか。

**委員** 本日は、どのように検討を進めていけばよいのかと考えていた。私としては方向が全く見えない。地域福祉とは、フェイス・ツー・フェイスが基本だと思うが、新しい生活様式のもとで、人間社会がどのように変わっていくのか。新型コロナウイルスは、情報社会の進行を早めたと思うが、これに合った地域福祉が必要だと思っている。どのタイミングで何をするか等について示すことは、今難しいと思う。

資料1のVI「子育て・子育てへの支援の充実」の現状欄には、「子育てに関する不安や悩みについて、また、児童虐待に関して電話相談は減った」とある。幼い子どもたちの間では、クラスターの発生は少なかったと思うが、学校だけが真っ先に閉鎖されてしまった。私は子育て分野に関わっているが、子育て世帯の負担

感は大きかったと感じている。相談が減ったということは、目黒区の特徴的なことなのか。何かが水面下で起こっていたのではないかと気になっている。

**子育て支援部長** 水面下で起きていることが伝わっていないのではないかとか、児童虐待等が増えているのではないかという報道があるが、子ども家庭支援センターでの相談実績は、実際にかなり少なかった。区も相談件数の減少については懸念しており、保育園や学校等に子どもたちの状況を定期的に確認するよう頼むなど様々なアプローチをしている。相談件数が減少した理由は、今のところ分かっていない。6月以降、相談件数は徐々に戻りつつあるため、過去の状況についてもしっかりと把握していきたい。

**委員** ケアマネジャー等、どうしても訪問が必要な場合がある。限られた時間で、対面でなければできないことをどのようにやっていくのか。今、居場所が少なくなり、社会的孤立の問題が圧倒的に大きくなっている。高齢の方にも分かりやすい資料を作るなど工夫をしていかなければならない。

自殺の問題について。地域福祉計画と自殺対策計画は調和を図ることになっている。新型コロナウイルス感染拡大において、自殺者数はリーマンショック後と同様に増加すると言われていたが、実際には減っている。皆が一斉に引きこもっているときは、実はさほどストレスは生まれにくい。皆が外に出始めたときに危機である。今後いわゆる派遣切りが続くとされているが、リーマンショック以上に自殺者が増えるかもしれないと懸念している。区はゲートキーパー方式等、多くの努力をしてきたと思うが、今後さらに配慮が必要ではないか。10代の自殺は唯一増加傾向にあるため、特に配慮が必要である。

**会長** 虐待やDV等は、これから一気に出現するという専門家もいる。今後の対応が大切になってくる。

**委員** 私は、移動支援、ガイドヘルパー事業に携わっているが、障害のある方でマスクを着用できない人がおり、大変困っている。引きこもりを防ぐ観点からも電車には乗らなければならない。解決策は見つかっておらず、今も模索している。

**会長** 医療の状況などについてはどうか。

**委員** 診療所では患者が減っている。感染を恐れてのことだと思われる。そこで、医師会ではオンラインで何かできないかと考えている。高齢者は機械操作に不慣れだが、訪問看護師やヘルパーが傍らで操作し、オンライン画面で医師と会話ができないか。このような仕組みづくりをある程度進めていくことも一つの手段ではないかと考えている。

**会長** 新しい支援のあり方、医療の支援にどのようにつなげていくかという点についても、様々な工夫に気づかされた。

答申に向けた課題整理（新型コロナウイルス感染症関連）を終わる。他の意見は意見等記入用紙にて提出してほしい。

### 3 その他

**会長** 7月17日をもって現委員の任期は満了となる。

次回の開催は、8月24日（月）午後2時からの予定である。次回は、答申案の検討を行う。

### 4 閉会